

薄暮時や夜間は視界が悪く周囲の状況が把握しにくくなります。それが危険の発見の遅れや誤った判断などを招いて事故につながります。そこで薄暮時や夜間の5つの事故例から、その防止策をまとめてみました。

1 薄暮時に横断歩行者と衝突

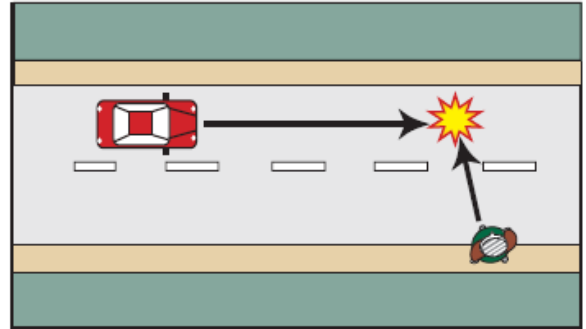
薄暮時、ヘッドライトを点灯せずに走行していたところ、対向車線側から道路を横断してきた歩行者に気づくのが遅れて接触してしまった（図1）。

事故防止策

薄暮時は、ドライバーから歩行者が見えにくだけでなく、歩行者からも車が見えにくくなる時です。特にヘッドライトを点灯していない車は歩行者から見落とされやすくなります。そのため車が接近していてもそれに気づかず歩行者が横断してくる危険性が高まります。

ヘッドライトは視界を確保するだけでなく、自車を目立たせ見落とされないようにする役割もありますから、薄暮時は早めにヘッドライトを点灯して歩行者や他車から見落とされないようにしましょう。

図1



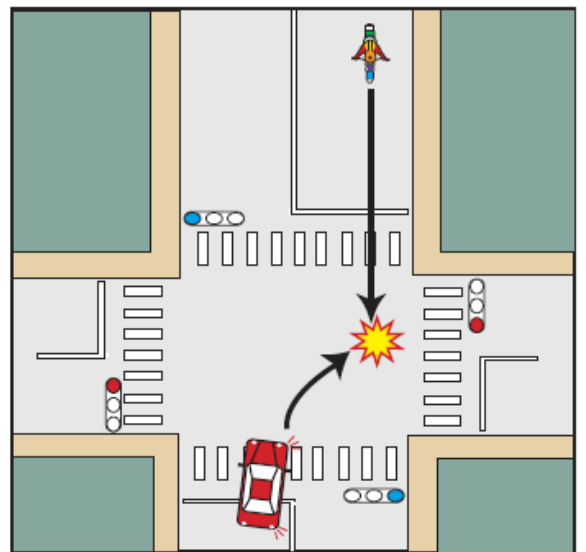
2 右折時に対向二輪車と衝突

夜間の交差点において、対向二輪車のヘッドライトが接近しているのを認めたにもかかわらず、右折を開始して対向二輪車と衝突した（図2）。

事故防止策

夜間是对向車のヘッドライトしか見えないため、対向車のスピードや対向車との距離の判断が昼間以上にむずかしくなります。特に二輪車は、ヘッドライトが一つしかないため、実際よりも遠くに感じてしまうことがあり、接近しているにもかかわらず自車のほうが先に行けるという誤った判断をしてしまうおそれがあります。対向車のヘッドライトが接近しているときは、予想以上に接近しているかもしれない、スピードが速いかもしれないと慎重に判断して、対向車の通過を待つようにしましょう。

図2



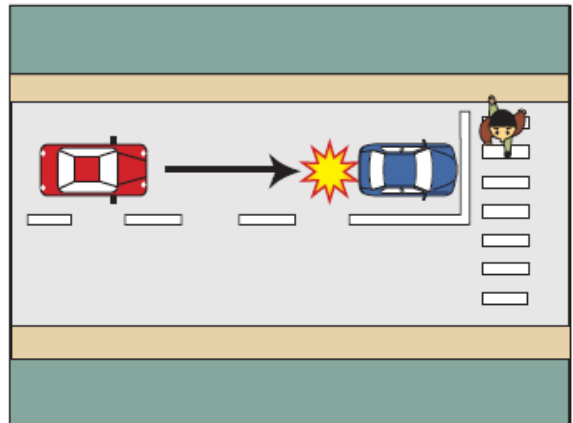
3 横断歩行者のために停止した前車に追突

前車に追従して走行中に、横断歩道の手前で歩行者のために急停止した前車にブレーキが間に合わず追突した（図3）。

事故防止策

昼間であれば、前車の先の横断歩道や横断歩行者が確認できても、視界の悪い夜間は確認できないことがあります。そのため前車が停止するかもしれないといった予測ができず対応が遅れがちになりますから、夜間は昼間よりも長い車間距離をとって、予想外の前車の動きにも対応できるようにしておきましょう。

図3



4 歩道を横切る際に無灯火の自転車と衝突

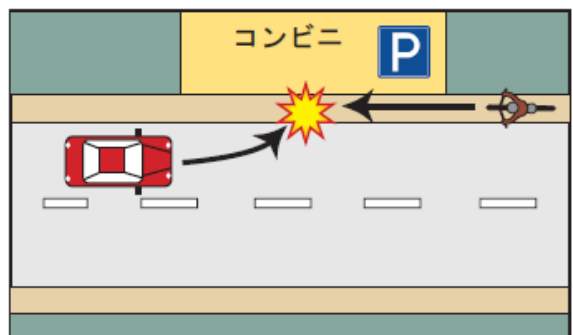
コンビニエンスストアに左折して入る際に、歩道で無灯火で走行してくる自転車に気づくのが遅れて衝突した（図4）。

事故防止策

夜間に営業しているコンビニエンスストアやファミリーレストラン付近は車だけでなく、自転車や歩行者も多いので、歩道の手前で確実に一時停止し、歩道の左右の状況を確認しましょう。特に無灯火の自転車は発見が遅れやすいので、意識して接近していないかどうかを確認することが大切です。

※コンビニエンスストア付近では対向車線側の歩道から歩行者が道路を横断してくることがありますから、対向車線側の歩道の状況にも目を配りましょう。

図4



5 灯火をつけずに駐車している車に追突

道路照明の少ない暗い道路で、非常点滅灯や尾灯を点灯せずに駐車している車両に気づくのが遅れて追突した。

事故防止策

夜間に非常点滅灯や尾灯を点灯せずに駐車している車両は大変見えにくく、ヘッドライトに照らされて初めて気づくというケースがよくあります。道路照明の少ない暗い道路を走行するときは、対向車とすれ違うときなどを除き、ヘッドライトを上向きにして視界を確保するなど、道路の状況把握に努めましょう。



株式会社ヤマザキ 保険事業部

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目8番16号

Tel 03-3863-6271 Fax 03-3851-5017

【制作】株式会社インターリスク総研 開発グループ